

施策カルテ

1 施策の位置付け

担当課 河川課

総合計画 政策の柱	市民の快適な暮らしを支えるために	政策名 (基本施策名)	良好な水と緑の環境を創出する	取組の 基本方向	「良好な水と緑の環境を創出する」ため、河川の治水対策や水辺に親しめる環境づくりを進めるための「快適な河川環境の創出」に重点的に取り組みます。	政策目標 (基本施策目標)	市民が身近に自然と親しめる良好な水と緑の環境が創出され、自然との共生が深まっています。
--------------	------------------	----------------	----------------	-------------	--	------------------	---

2 施策の現状と達成状況、課題の抽出

①施策名	②施策目標						④施策の達成状況	③達成率						
	環境と調和のとれた快適な河川環境が創出されています。							H19:基準	H20	H21	H22	H23	H24:目標	達成率(%)
①施策名	快適な河川環境の創出						④施策の達成状況	施策指標(単位)						達成率(%)
②施策目標	環境と調和のとれた快適な河川環境が創出されています。							指標① (総合計画に基づく指標)	54.3	55.4	56.9	57.4	57.8	
③施策を取巻く環境	国・県等の動向	国においては、各地域が工夫と努力を発揮し、活気に満ちた地域社会をつくるため、新たに社会資本整備総合交付金が導入されている。 近年の地球温暖化の影響による予測の難しいゲリラ豪雨の発生や、国等の財政状況の悪化など、河川整備を取り巻く環境が厳しくなっている。						指標②	---					
	外部意見その他	都市化の進展と昨今の異常気象に伴い、依然として豪雨時の溢水被害が発生していることから、流域住民等より安全性の確保が求められている。						指標③	---					
							指標④ (特記事項)							

⑥施策の評価	達成度 (単年度目標)	● 達成している (90%以上)	概ね達成 (70%~90%未満)	達成していない (70%未満)	説明	厳しい財政事業の中、国や県の補助金を有効活用しながら、計画的に河川整備が進んでいる。	⑦現状分析と課題の抽出 (③⑤⑥をええ分析)	成果が見られる点	河川愛護事業や河川環境基金事業について、多くの市民の参加を促進することにより、河川に対する関心を深めることができた。
	必要性・緊急性 (住民・社会ニーズ)	● 増加している	横ばい	減少している	説明	都市化の進展と昨今の異常気象に伴い、溢水被害が発生していることから、早期の河川改修が求められている。		改善の必要な点	用地取得が難航し、都市基盤河川御用川整備事業の目標を達成していないことから、地元住民や地権者の理解を得ながら、用地取得の推進が必要である。
	適切性 (適切な事務事業の選択、実施)	● 十分である	● 不十分な事業が一部ある	不十分な事業が複数ある	説明	溢水被害を解消するため、現行の河川整備事業を適切に推進していく。都市基盤河川事業については、早期に事業効果を発揮させるため、地元住民や地権者の理解を得ながら、引き続き、用地取得に努めていく必要がある。			
	有効性 (政策目標への効果)	● 十分である	● やや不十分である	不十分である	説明	河川整備を計画的に進めるとともに、市民参加による河川愛護活動や、河川環境基金を活用した事業を実施することにより、良好な河川環境と、市民の河川愛護精神の向上に十分な効果を上げている。			

3 今後の取組方針

⑧取組の考え方	総論	都市化の進展と昨今の異常気象により、依然として豪雨時の溢水被害が発生していることから、国や県の補助金を有効活用し、優先化、重点化を図りながら整備を推進する。	⑨政策評価 会議意見	<ul style="list-style-type: none"> 「良好な水と緑の環境を創出する」ため、溢水被害の解消や治水と環境に配慮した河川整備に取り組む。 河川愛護に関して多くの市民・ボランティア・行政の各主体の参画と協働による新たな仕組みづくりや推進方策等を検討する。 河川整備事業全般について、優先化、重点化を図りながら、溢水被害の早期解消、治水機能の向上、自然環境に配慮した河川整備を推進する。
	重点事業	河川整備事業全般について、溢水被害の早期解消を図るとともに、治水機能を高め、自然環境に配慮した河川の整備を推進する。		
	見直し事業	都市基盤河川事業については治水上重要な事業であるものの、用地取得が遅れていることから、引き続き、地権者の理解促進に努め用地取得を進めるとともに、取得した用地の有効活用を図り、河川環境の創出や溢水被害の軽減を目指す。		

4 施策を構成する事務事業一覧

No.	事業名	対象者	開始年度	活動指標等	H21	H22	H21	H22	重点度 (A~C) ※施策目標に対する 寄与度	事業の 方向性	施策目標を達成するための取組方針
					目標値	目標値	事業費 (千円)	事業費 (千円)			
1	都市基盤河川奈坪川整備事業 担当課 河川課	流域に居住する住民及び市民	H20	流入立坑整備率	32%	12%	25,649	220,056	A	継続	市民生活の安全確保のため、一級河川奈坪川について、溢水被害の早期解消を図るとともに、治水機能を高め、自然環境に配慮した河川の整備を推進する。
					62%	32%					
2	準用河川整備事業 担当課 河川課	流域に居住する住民及び市民	S50	河川整備延長	573m	435m	288,286	557,403	A	継続	市民生活の安全確保のため、準用河川について、溢水被害の早期解消を図るとともに、治水機能を高め、自然環境に配慮した河川の整備を推進する。
					1,494m	1,472m					
3	都市基盤河川御用川整備事業 担当課 河川課	流域に居住する住民及び市民	H3	用地取得面積	330㎡	400㎡	238,029	107,382	A	継続	市民生活の安全確保のため、一級河川御用川について、溢水被害の早期解消を図るとともに、治水機能を高め、自然環境に配慮した河川の整備を推進する。
					0㎡	162㎡					
4	普通河川整備事業	流域に居住する住民	S17	河川整備延長	479m	275m	5,000	7,560	A	継続	市民生活の安全確保のため、普通河川について、溢水被害の早期解消を図ると

様式 2

+	担当課	河川課	民及び市民	+	河川整備地区	171m	51m	3,095	1,300	A	継続	もに、治水機能を高め、自然環境に配慮した河川の整備を推進する。
5	河川愛護活動事業補助金		所属する河川愛護グループ	S45	河川愛護グループ新規設置数	2グループ	1グループ	1,780	1,780	A	継続	河川愛護活動について、さらに多くの市民の理解や参加を促すため、河川愛護グループの活動状況などのPRに努める。
	担当課	河川課				0グループ	1グループ					
6	河川環境基金事業		市内全域の市民	H3	河川絵画板設置枚数	15枚	15枚	2,155	3,195	B	継続	市民の河川への関心と愛着を高めるため、引き続き河川環境学習や河川絵画板事業など河川環境基金事業を推進する。
	担当課	河川課				15枚	15枚					
7	グラウンドワーク活動センター指定管理		地域住民、企業	H18	利用者数	6,000人	6000人	2,966	2,966	B	継続	環境と調和のとれた快適な河川環境を創出するとともに、市民の自然環境への関心が高まるよう、引き続き、事業を推進する。
	担当課	農村整備課				9,007人	10,726人					
施策事業費合計								563,958	900,342			